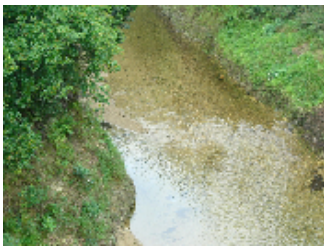


# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.6.5 No. 107 連絡先 FAX 042-555-1911



## やんばるの森に米海兵隊のヘリパッド建設はNO！

沖縄本島の北部に自然豊かなやんばるの森があります。そしてやんばるにしか生息していない特別天然記念物のヤンバルクイナやノグチゲラがいます。「やんばるの森の自然環境と野生生物は、世界自然遺産の価値がある」と国際自然保護連合なども言っています。

ここに横田基地の10倍以上の広大な米軍北部訓練場があります。東村高江区は人口160人ほどですが、ここ高江を囲むように米軍「ヘリパッド」の建設が具体化したのは1996年。住民の反対を無視して2007年7月に工事を強行しました。しかし、3年余にわたる座り込みで建設をくい止めてきました。2010年12月、また工事を強行。住民や支援者たちの頑張りで、2011年2月末まで工事をくい止めました。

現在、トリたちの営巣期に入っており工事は中断されています。今後、工事が再開されないように、「沖縄・高江でのヘリパッド工事中止を求める要請」署名にご協力ください。



## 神奈川県平和委員会からピースメール

沖縄に次いで米軍基地の多い神奈川県平和委員会から、「原子力空母の原子炉修理を止めろ！空母ジョージ・ワシントンの母港を撤回せよ！」「横須賀核燃料工場で放射能汚染液漏れ事故！緊急抗議」「またも放射能汚染廃棄物貯蔵のドラム缶に穴！横須賀・核燃料製造会社、先月放射能漏れをしたばかり」「空母艦載機NLP訓練に抗議！厚木基地に」などピースメールが届いています。(写真：横須賀駅頭宣伝)

## ようこそ 横田基地見学ツアー、毎月第3日曜日の座り込み

5月15日(日)の第26回横田基地撤去を求める座り込みには、埼玉県の日高市平和委員会の方々が参加してくれました。その様子は、6月5日号の平和新聞に掲載されています。同日、東京平和委員会事務局長の岸本さん(常連)、中央区平和委員会から3名の参加がありました。

5月22日(日)には、二つの団体の方々がそれぞれに、砂川闘争を学びながら、横田基地にも足をのばして基地見学や学習をされました。午後は雨になってしまいました。

5月28日(土)は、伊達判決を生かす会が「横田基地、砂川を見て横田基地反対運動の人たちとの交流会」を準備されました。略称「てっきよの会」は交流会に参加しました。

6月19日(日)には、早稲田9条の会が横田基地の見学と合わせ第27回座り込みにも参加予定です。千葉県平和委員会からも「松戸から座り込みに行くよ」と声がかかっています。

今年度は、米軍横田基地に航空自衛隊「横田基地」が新設されるという年です。多くの皆さんに、横田基地に関心を持ってほしい、座り込みにも参加してほしい、と思っています。

お知らせ 10月15日(土)は、福生市民会館で、伊波洋一氏(前宜野湾市長)をお招きして横田基地もいらない！市民交流集会(主催：同実行委員会)が開催されます。ぜひ、ご参加を！

## 『原発がどんなものか知ってほしい』（平井憲夫氏）（2）

（No.107の裏面）

▼放射能垂れ流しの海…冬に定検工事をすることが多いが、定検が終わると、海に放射能を含んだ水が何10トンも流れてしまう。今、日本列島で取れる魚で、安心して食べられる魚はほとんどない。日本の海が放射能で汚染されている。海に放射能で汚れた水をたれ流すのは、定検の時だけではない。原発はすごい熱を出す。日本では海水で冷やして、その水を海に捨てる。放射能を含んだ温排水だ。

原発の事故があっても、県などが安全宣言を出すし、電力会社はそれ以上に隠そうとする。

放射性物質がいっぱいついている防護服も、最初は水洗いして、全部海に流している。

▼内部被爆が一番怖い…原発の建屋の中は、全部の物が放射性物質に変わる。物がすべて放射性物質になって、放射線を出すようになる。どんなに厚い鉄でも放射線が突き抜ける。体の外から浴びる外部被曝も怖い、一番怖いのは内部被曝である。

原発の中ではホコリが放射能をあびて放射性物質となって飛んでいる。このホコリが口や鼻から入ると、それが内部被曝になる。原発の作業では片付けや掃除で内部被曝する。

体の中に入った放射能は、通常は、3日くらいで汗や小便と一緒に出てしまうが、その間、放射能を体の中に置いたままになる。放射能は体から出るが決してゼロにはならない。微量でも蓄積される。

私はその内部被曝を百回以上もして、癌になってしまった。癌の宣告を受けたとき、本当に死ぬのが怖くて怖くてどうしようかと考えた。母が何時も言っていた、「死ぬより大きいことはないよ」と。じゃ死ぬ前になにかやろうと。原発のことで、私が知っていることをすべて明るみに出そうと思った。

▼普通の職場環境とは全く違う…放射能というのは蓄積する。いくら微量でも10年なら10年分が蓄積する。これが怖い。日本の放射線管理は、年間50ミリシーベルトを守ればいいという姿勢だ。

例えば、定検工事だと3ヶ月くらいかかる、それで割ると一日分が出る。でも、放射線量が高いところでは、一日に5分から7分間しか作業が出来ない。それでは全く仕事にならないから、3日分とか、1週間分をいっぺんに浴びせながら作業をさせる。これは絶対にやってはいけない方法だが、そうやって10分間なり20分間なりの作業ができる。そんなことをすると白血病とかガンになると知っていると、まだいいのだが……。電力会社はこういうことを一切教えない。

稼働中の原発で、機械に付いている大きなネジが一本緩んだことがあった。動いている原発は放射能の量が物凄いから、1本のネジを締めるのに働く人30人を用意した。一列に並んで、ヨーイドンで7メートルくらい先にあるネジまで走る。行って、1、2、3と数えるくらいで、もうアラームメーターが鳴る。ネジを一山、二山、三山締めるだけで160人分、金額で400万円くらいかかった。

なぜ、原発を止めて修理しないのか、それは原発を一日止めると、何億円もの損になるから、電力会社は出来るだけ止めない。放射能は危険でも、企業というものは、人の命よりもお金なのだ。

▼「絶対安全」だと5時間の洗脳教育…原発など、放射能のある職場で働く人を放射線従事者という。日本の放射線従事者は今までに約27万人だが、そのほとんどが原発作業員である。

原発で初めて働く作業員に対し、放射線管理教育を約5時間かけて行う。この教育の最大の目的は、不安の解消のため。原発が危険だとは一切教えない。国の被曝線量で管理しているので、絶対大丈夫、安心して働きなさい、世間で原発反対の人たちが、放射能でガンや白血病に冒されると言っているが、あれは“マッカナ、オオウソ”である、絶対に大丈夫だと洗脳する。「原発安全」の洗脳を、電力会社は地域の人にも行っている。有名人を呼んで講演会を開いたり、文化サークルで料理教室をしたり、カラー印刷の立派なチラシを新聞折り込みしたりして。だから、事故があって、ちょっと不安に思ったとしても、「原発がなくなったら、電気がなくなって困る」と思い込むようになる。

私自身が20年近く、現場の責任者として、働く人に「洗脳教育」をやって来た。何人殺したかわからない。現場で働く人は放射能の危険や被曝のことは一切知らされていないから、不安だとは思わない。作業員が毎日被曝をする。それをいかに本人や外部に知られないように処理するかが責任者の仕事。本人や外部に被曝の問題が漏れるようでは、現場責任者は失格なのだ。これが原発の現場である。